

教育の情報化（第2学年算数科）予習型授業 反省

令和3年9月28日(火) 2校時 第2学年6人 指導者 井料 衣理

本時 第2学年(4/14)

子どもの学ぶ力を発揮させるための教師の手立て	主な学習活動(第2学年)		実際の学習活動の様子	課題(指導助言者からの指導も含む)
<p>○ ロイロノートを使って大きな画面で示しながら予習してきたことを説明し合い、質疑応答を行うことで、全員で課題解決ができるようにする。</p> <p>○ 事前に ipad を確認しておき、どうしても考えが浮かばない場合、家庭からロイロノートで教師に質問したり、学校で確認したりすることで、授業に見通しがもてるようにしておく。</p> <p>○ 子どもが子どもを指名するよう促す。</p> <p>○ 考えの共通点や相違点に着目するだけでなく、習得した概念を「どうして」、「なぜ」活用したのか理由を述べさせる。</p> <p>○ 子どもが目標を達成するために、紙で作った四角形を頂点や辺で切る活動を行う。</p> <p>○ 授業で分かったことをできるだけ一人でまとめる。教師は、子どもの言葉に耳を傾け、出てきた言葉を使ってまとめを行う。</p> <p>○ デジタルドリルnavimaに取り組みさせることで、自分の課題を把握し、克服させる。</p> <p>○ 間違った問題を、何度も繰り返し解き、理解を深めるようにする必要がある。</p> <p>○ navima で解く計算は、ノートに書いても、書かなくてもよいが、計算の跡を残すことで間違いに気づきやすいことなど、ノートの有用性は指導する。</p> <p>○ navima の問題に取り組む際の見届げとともに、更なる定着のための子どもどうしの学び合いや、教師による全体的な指導を行う。</p> <p>○ 課題提示：紙を折った動画を提示し、みんなで紙を折り、家がかどを見つけることを促すことで、「予習してみたい、次の時間ががんばりたい」という学習への動機付けを図る。</p> <p>○ 子どもが家でかどを見つけ、写真に撮りたいと思えるようにし、ipad 持ち帰りの学習につなげる。</p>	<p>0 予習する</p> <p>1 予習してきたことを説明する動画を撮り、考えたことを伝える準備をする。 「頂点と頂点を結ぶと、三角形と三角形ができると思います。どうしてかという、三角形は辺が3本できているからです。」など、考えの理由を話すことができるようにする。</p> <p>2 自分の考えを、ロイロノートを使って説明する。 「〇〇さんの考えは、頂点と辺を結ぶと三角形と四角形ができると言っていたけど、どうして三角形と四角形ができるのか教えてください。」などと、質問したり、「どうしてかという、三角形は辺が3本、四角形は辺が4本の形ができているからです。」と理由を伝えたりすることで、習得した概念を活用する。▲</p> <p>3 学習のまとめを行う。▲</p> <div data-bbox="470 1097 751 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>まとめ</b> 2つの三角形は、ちょう点とちょう点をむすんでできる。 三角形と四角形は、ちょう点とへんをむすんでできる。 2つの四角形は、へんとへんをむすんでできる。</p> </div> <p>4 navima の問題に取り組む。 分からない問題について、教師に質問する。 授業内で間違った問題を繰り返し解く。 子どもどうしで教え合い、課題解決へ向けて活動する。 教師の指導に耳を傾ける。</p> <p>5 次時の課題をつかむ。</p> <div data-bbox="470 1624 751 1747" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>課題</b> 作ったかどをあてて、家にあるおなじかどを見つけよう。</p> </div> <p>教師が提示する動画を見たらうで、紙を折ってかどを作り、それを使って家がかどを見つけることができるようにする。◎</p> <p>6 次時のめあて</p> <div data-bbox="470 1915 751 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>めあて</b> 見つけてみたかどは、どんなかどだろうか。</p> </div> <p>学び合い名人シート(Google フォーム)に記入する。◎</p>	<p>展開 15分</p> <p>終末 5分</p> <p>習熟 15分</p> <p>導入 10分</p>	       	<p>○ 帰宅してからも担任とのやりとりが可能になる方法を、今後も追究していく必要がある。</p> <p>○ (上記など)持ち帰ることの効果をもとめておく必要がある。</p> <p>○ 机を個別にしたりペアにしたりするなど、効果的に学び合いが行えるような学習形態を工夫する必要がある。</p> <p>○ 児童同士で学習の内容について学び合える雰囲気をつくり、日常の授業から培っていく必要がある。</p> <p>○ ロイロノートの活用法(蓄積・共有・思考の促進)、活用の意図を更に整理し、効果的な活用の在り方を追究する必要がある。</p> <p>○ 前時までに習得した「辺」や「頂点」などという言葉が、学び合いの際に表出していることが大切である。また、そのための学習のまとめの工夫が必要である。</p> <p>○ 個人の学習状況に合わせたワークシートの作成に留意する必要がある。</p> <p>○ 子どもが考え、自分の言葉でまとめることが大切。</p> <p>○ 教師による ICT の活用について整理する必要がある。</p> <p>○ navima の結果、そのつまずきをどのように把握し、次時の指導に役立てるかを検証する必要がある。</p> <p>○ 単元のねらいを把握しながら授業を行うために、学習指導要領、教科書レベルでの教材研究を行うことが重要である。</p> <p>○ 単元を通して意識させなければならない考えは何なのかを教師の側が明確にもつ必要がある。</p> <p>○ 学びが日常生活にまで延伸できる、ICT を活用した予習型学習のよさを更に追究する必要がある。</p> <p>○ 学び合い名人カード(google form)を継続し、データを見取りながら授業を行うことが大切である。</p>